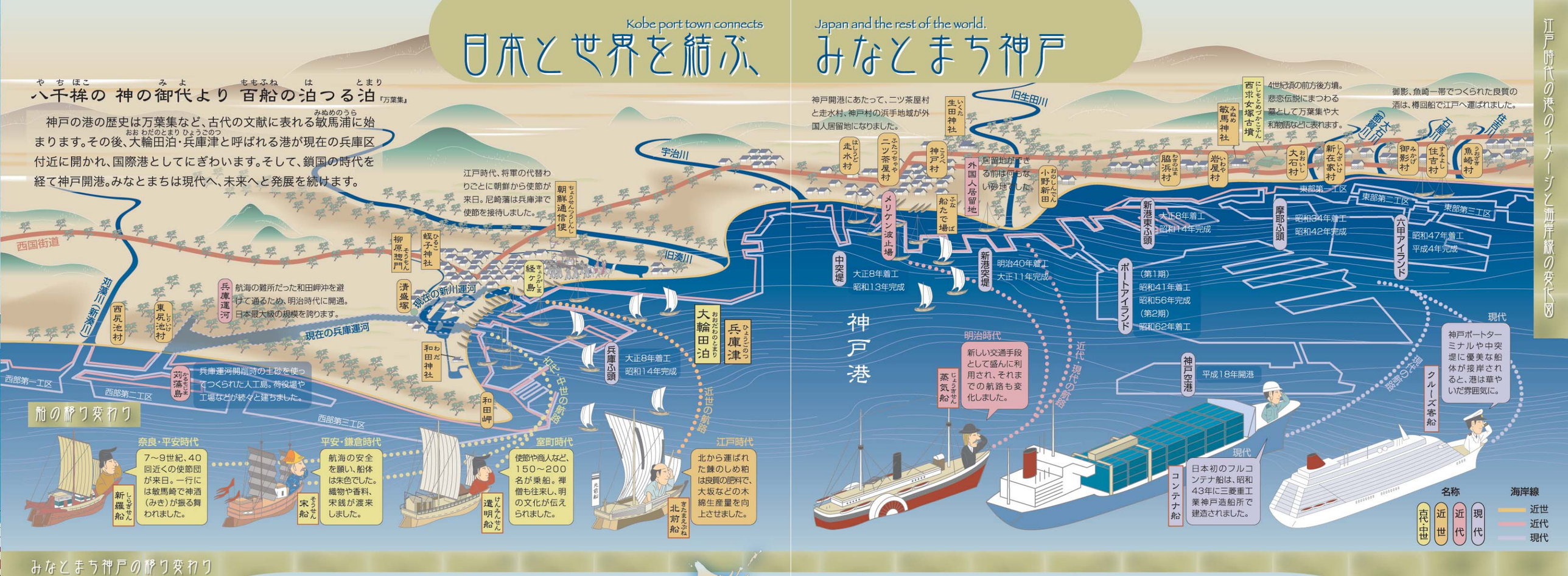
Kobe port town connects Japan and the rest of the world.

日本と世界を結ぶ、みなとまち神戸

八千桙の 神の御代より 百船の泊つる泊『万葉集』

神戸の港の歴史は万葉集など、古代の文献に表れる敏馬浦に始まります。その後、大輪田泊・兵庫津と呼ばれる港が現在の兵庫区付近に開かれ、国際港としてにぎわいます。そして、鎖国の時代を経て神戸開港。みなとまちは現代へ、未来へと発展を続けます。



みなとまち神戸の移り変わり

古代・中世

新羅船も訪れた古代の港・敏馬浦

敏馬浦は現在の灘区岩屋、脇浜付近にあったとされる天然の良港で、万葉集にも船が盛んに行き交うようすが歌われています。また、畿内★の西端に位置するため、朝鮮半島の新羅の使節も来航する国際的な港となっていました。

★畿内：都を中心にした大和・山城・河内・和泉・摂津の5国

大輪田泊から兵庫津へ、繁栄する国際貿易港

和田岬北側の大輪田泊は、奈良時代の僧・行基が摂播五泊の一つとして整備したといいます。

平安時代には日宋貿易を行った平清盛が港への風波を防ぐため、経ケ島を築造しました。清盛は治承４年（1180）に短期間ながら福原遷都も実施。この地に港・首都・経済の機能が集中した海港都市を築くことを夢見ていたといわれています。

平 清盛

大輪田泊は鎌倉時代の僧・重源による修築の頃から兵庫津と呼ばれ、室町時代に足利義満が日明貿易を始めると遣明船の基地として栄えました。また、15世紀中頃には瀬戸内海と畿内を結ぶ物流の拠点港となり、年間2000隻以上の船が穀類・海産物・塩などを積んで入港しました。

近世

北前船でにぎわう兵庫津

17世紀中頃、東回りや西回り航路が開発されました。西回り航路では北前船が活躍。蝦夷地（北海道）の昆布や鰊のしめ粕★を兵庫・大坂にもたらし、瀬戸内海地域から米や酒、木綿古着などを東北地方に運びました。

兵庫津も北前船の寄港地として繁栄します。北前船の船主となった高田屋嘉兵衛は蝦夷地との交易で大成功を収め、蝦夷地の開発にも貢献しました。

★鰊のしめ粕：油を搾り取ったあとの鰊。肥料として使われました

鎖国から開港へのステップ

幕末にロシア軍艦が大阪湾に来航したことで、瀬戸内海沿岸の防衛が必要になりました。

文久３年（1863）、幕府は和田岬などで砲台建造に着手し、勝海舟に海軍操練所の設置を命じました。この頃、兵庫津の東の神戸村には網屋吉兵衛がつくった船たて場（船の修理用ドック）があったため、その近くに（現在の新港第一突堤付近）日本初の海軍の養成所は開設されました。そして、外国貿易のための新しい港も人家が密集していた兵庫津周辺を避け、この地を中心に建設されることになります。

網屋吉兵衛

近代

神戸開港と外国人居留地の誕生

日米修好通商条約締結後、神戸は横浜などから約10年遅れて1868年に開港しました。開港当初は、閉所された海軍操練所の跡地が運上所（税関）に、かつての船たて場が運上所の船入場になったほかは、わずかな施設しかなく、居留地建設も遅れていました。その後、英国人、J.W.ハートの設計で町づくりが進み、東洋一美しい居留地といわれた町並みが完成。貿易は居留地の外国人主導で行われ、居留地はビジネスの中心地として発展していきます。

開港当初の運上所前と居留地

近代産業を支えた兵庫津

兵庫津やその周辺では川崎正蔵の「川崎兵庫造船所（川崎造船所）」や「神戸三菱造船所」、後に総合商社として活躍する「鈴木商店」が創業しました。また、明治32年（1899）には八尾善四郎が、航海の難所だった和田岬沖を避けて西の海と既設の新川運河（1876年竣工）を結ぶ兵庫運河を開削。これにより運河沿いには製粉業や木材加工の企業が進出しました。

現代

時代の要請に応え、発展する港

明治〜昭和初期の修築工事などを経て、神戸港の近代化は進みましたが、第二次世界大戦では多くの施設が失われました。

昭和29年、新しい工業基盤をつくるため、神戸市東部で埋立事業が着工。神戸製鋼所が進出した第一工区をはじめ、第二・三工区が昭和42年までに完成。西部でも昭和32年〜40年に大規模な埋立が行われました。その後、昭和56年には港湾機能を持つ海上都市・ポートアイランドが誕生し、神戸港のコンテナ物流が大幅に進展。平成4年にはコンテナバースやフェリーバースを整備した六甲アイランドも竣工しました。

阪神・淡路大震災を乗り越えて

平成7年の阪神・淡路大震災では神戸港にも甚大な被害がありました。災害に強い港をめざして行われた施設の復旧は約2年で完了しましたが、その間、コンテナ貨物取扱量は激減。国内とアジアの物流経済に大きな影響を与えました。

倒壊したガントリークレーン

さらに豊かな みなとまちへ

東アジア諸港が台頭する中、平成16年に大阪港とともにスーパー中枢港湾に指定された神戸港は、コンテナ輸送の国際物流拠点をめざして港湾整備を進めています。平成18年には神戸空港も開港し、神戸は多彩な機能を持つみなとまちへと進化を続けています。